

平成29年度第2回原子力災害における避難に伴う渋滞対策検討会 議事概要

○資料1により、事務局から第1回検討会で提示した4つの区分（避難方策の具体化、住民啓発・情報発信、情報提供の方策、車両分散の方策）毎の具体的検討項目について、事前に実施していた構成員への意見照会の結果説明と各区分毎に整理した今後の取り組みの方向性案を提示した。

4つの区分毎の取り組み（案）は次のとおりであり、了承された。

1 避難方策の具体化

- ・避難ルートの再点検、渋滞シミュレーションの実施等

2 住民啓発・情報発信

- ・段階的避難の合理性、有効性等について、リーフレットを作成する等の住民啓発に努める。

3 情報提供の方策

- ・原子力災害時の避難に必要な情報を入手できる方法を整理して県民に周知する。

4 車両分散の方策

- ・引き続き関係機関と協議しながら効果的な対策を検討していく。

○資料2により、いわき市から同市が実施しているいわき市原子力防災訓練について、説明が行われた。

○構成機関からの主な意見等は次のとおり。

- ・広報誌は配布しただけではあまり見てもらえないと感じているため、実際に見てもらう方法を考えることが必要。
- ・13市町村以外の市町村や住民に発電所の状況を周知することも必要。
- ・信号機の停電対策について、停電時に自動的に電源を供給する電源付加装置を設置することができ、国道6号では主要な交差点を優先に設置している。
- ・優先道路の黄色点滅について、信号待ちが渋滞ネックと考えられるので有効な方法である。国道6号では主要な交差点以外は黄色点滅で運用している。
- ・停止中の原発で今後どのようなことが起こり得るか、事故が起きたときには時間の経過によって何が起こり得るか、理解してもらうことが必要。
- ・事故が起きたとしても、国や県から必要な情報の伝達や説明がなされるという安心感を住民に持ってもらうことが必要。